

## 第2期宍道湖・中海水産資源維持再生構想(案)【概要版】

### 1. 構想策定の趣旨

平成18年に策定した「宍道湖・中海水産資源維持再生構想」については、平成22年度で構想期間が終了することから、これまでの成果や課題、更には自然・社会情勢の変化も踏まえ、新たに「第2期宍道湖・中海水産資源維持再生構想」を策定し、引き続き宍道湖・中海の水産振興を推進していく。

### 2. 構想の期間

構想の期間は、平成23年度から平成27年度の5年間とする。

### 3. 構想の目標

#### 長期目標（将来目標）

- 宍道湖：平成15年の漁獲量7,443トン为目标とする。
- 中海：中海の水域面積がほぼ現状の姿となった昭和50年代半ばの漁獲量1,000トン为目标とする。

#### 構想目標（H23～H27）

##### 宍道湖

- 1) シジミ：1人1日あたり漁獲制限150kg
- 2) ワカサギ：平成15年の産卵場の産卵密度2,000粒/m<sup>2</sup>

##### 中海

- 1) アサリ：平成17年の漁獲量70トン（H16～H20の漁獲量の最大値）
- 2) サルボウ：漁業の再開

### 4. 構想の施策

#### 宍道湖

- 1) シジミ資源の永續利用
- 2) ワカサギ・シラウオ資源の回復と維持
- 3) 未利用資源の有効利用
- 4) 多くの魚介類が育つ湖づくり

#### 中海

- 1) アサリ資源の再生
- 2) サルボウ資源の復活
- 3) 未利用資源の有効利用
- 4) 多くの魚介類が育つ湖づくり
- 5) 魚介類の資源管理の推進

### 5. 構想の進行管理

関係漁協の代表者、周辺市町の職員、住民団体及び学識経験者により構成された宍道湖・中海水産振興構想検討委員会において、施策の進行管理を毎年度行う。